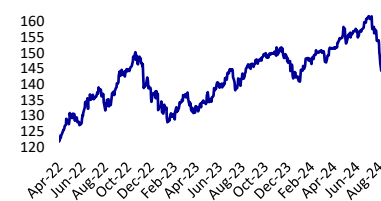


市場動向

■USD/TWD



■USD/JPY



■JPY/TWD



■EUR/USD



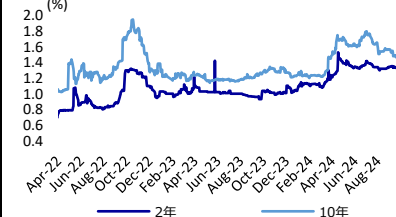
■USD/CNH



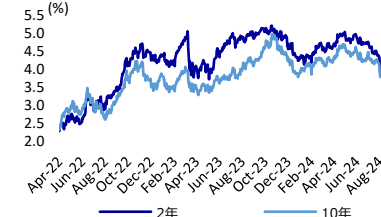
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初9/16は、前週末海外時間より米金利の低下が継続していたことを背景にドル売りが優勢な展開となり、ギャップダウンして31.950でオープン。その後、週中に控えるFOMCにおける利下げや、台湾中銀における住宅市況抑制策発表等が警戒される中、台湾ドル買い圧力が優勢な展開となり31.90台前半で上値重く推移。9/17は、台湾休場。9/18は、台湾株が急落する中、外国人投資家による台湾株売りがまとまって見られ、台湾ドル売りが優勢な展開となり31.90台半ばまで上昇。9/19は、前日海外時間のFOMCにおいて50bpの大幅利下げが行われたものの、中銀による景気認識が強気であったこと、利下げペースについても50bpが基本ペースではないとの発言が聞かれたこと等から米長期金利が上昇。ドル買いが進み一時32.060まで上昇した。9/20は、台湾中銀が預金準備率を引き上げたことを受け、一時31.850まで台湾ドル高を進行したが、長く続かず、32.00近辺へ台湾ドル反落。最終的には前週比0.1%ドル安台湾ドル高の31.962で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は329.2億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初9/16は140.74でオープン後、海外時間に発表された米9月ニューヨーク連銀製造業景況感指数が市場予想を上回る結果となったことを受けてドル買いが進み、140円台後半で底堅く推移。9/17は、発表された米8月小売売上高が市場予想を上回る結果を受けて、ドル買い圧力が強まり142円台前半まで上昇。9/18は、海外時間にFOMCにて米政策金利の50bpの引き下げが決定されたことを受けて140円台半ばまで下落。しかしその後、パウエル議長より「50bpの利下げを基本のペースと見なすべきではない」と聞かれると、今後の利下げペース鈍化への警戒感からドルが買い戻され、142円台前半まで上昇した。9/19は、前日海外時間のFOMC以降、市場参加者間で円買いポジションの解消が進むのではないかと懸念から円売りが優勢な展開となり144円近辺まで上昇。その後は米金利の上昇が一服する中、ドルが売り戻され142円台半ばまで下落した。9/20は、日銀の金融政策決定会合で政策金利を0.25%に据え置いた。日米の金融政策決定会合が終了し、FRBは50bp利下げを実施したもののややタカ派な姿勢が印象的だった一方、植田総裁のハト派的発言を受けて、ドル/円は上昇。最終的には前週比0.1%ドル高円安の143.96で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.750-32.050

今週は上値の重い推移を見込む。米国では利下げが開始された一方、台湾では金融引き締めスタンスが維持される等、金融政策の違いが鮮明となる中、台湾ドルが買われやすいであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：142.00-145.00

今週は底堅い推移を見込む。日米金利差が急速に縮小する中、長期的にはドル売り圧力が強まりやすいものの、目先は過度な円買いポジション解消への警戒感が高まる場合、円が売られやすいであろう。

今週の予定

9/23 (MON)	台湾8月失業率、米9月PMI景況感指数
9/24 (TUE)	台湾8月輸出受注
9/25 (WED)	日本8月サービスPPI、台湾8月鉱工業生産、米8月新規住宅販売件数
9/26 (THU)	米8月耐久財受注、米第2四半期GDP、米第2四半期PCE
9/27 (FRI)	日9月東京都都区CPI、米8月PCE、米9月ミシガン大消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。